

令和2年度第1回成田市社会教育委員会会議概要

- 1 開催日時 令和2年7月15日（水） 午後2時～午後3時30分
- 2 開催場所 成田市役所 6階大会議室
- 3 出席者（委員） 日暮健委員、佐々木英夫委員、湯浅美智子委員、多田初枝委員、鈴木隆英委員、小林元委員、大徳正博委員、磯前勉委員、齊藤好徳委員、多田美香委員
（事務局） 関川教育長
清水教育部長、田中教育部参事
堀越生涯学習課長、麻生副参事、中山主幹兼文化財係長、成毛社会教育係長、小野寺青少年教育係長、田島副主査、畑中主事

4 議事

- (1) 委員長及び副委員長の選出について
- (2) 生涯学習課所管事業における課題について
- (3) その他

5 会議の内容

- (1) 委員長及び副委員長の選出について

《発言要旨》

成田市社会教育委員の委嘱替えに伴い、成田市社会教育委員条例第5条に基づき、委員長及び副委員長の選出が必要なことを事務局から説明。仮議長を選出し、議事を進行。選出については、次のとおり。

日暮仮議長：委員長の選出について、何かご意見はございますか。

湯浅委員：昨年度も委員長として活躍いただきました、日暮委員を推薦いたします。

日暮仮議長：只今、湯浅委員より委員長を私にとという提案がございました。ほかに意見はございますか。

（意見なし）

ご賛同いただける方は拍手をお願いいたします。

—拍手多数—

日暮仮議長：それでは、私が務めさせていただきます。委員長として、引き続き会議の進行をさせていただきます。ここで、仮議長の任を解かせていただきます。

事務局：それでは、日暮委員長よりご挨拶をお願いします

日暮委員長：(挨拶)

日暮委員長：引き続き、副委員長の選出についてお諮りします。どなたかご意見はございますか。

湯浅委員：副委員長に、成田市のスポーツ協会でご活躍されている佐々木委員を推薦いたします。

日暮委員長：只今、湯浅委員より佐々木委員をご推薦いただきましたが、ほかに意見はございますか。

(意見なし)

ご賛同いただける方は、拍手をお願いいたします。

—拍手多数—

日暮委員長：副委員長は佐々木委員に決まりました。

それでは、佐々木副委員長よりご挨拶をお願いします。

佐々木副委員長：(挨拶)

(2) 生涯学習課所管事業における課題について

《発言要旨》

社会教育委員の役割等について事務局より説明を行い、その後、生涯学習課が所管する事業の課題として導入を検討している「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」事業の概要説明を行った。

鈴木委員：コミュニティ・スクールは長南小学校で既に実施していると伺ったが、成田市で導入にあたり、長南小学校ではどのようにコミュニティ・スクールの人材発掘をしたのか調査していると思いますが、そのあたりをお伺いしたい。

事務局：長南町からは、学校運営協議会制度設置の規則等を確認しており、本市としても、これからも連絡を取り合い情報収集していきたいと思っております。

鈴木委員：私のイメージでは、成田市はこういうものにいち早く実施する自治体というイメージを持っております。私は、私立幼稚園の運営をしておりますが、意外に地域の方から苦情をいただく対象になってきた経緯や期間がある程度長かったのではないかと思いますので、地域の皆様のご助力をいた

だきながら、苦言みたいなものも含めてどうするのかということを経験単位、地域単位で取り組む試みは非常に素晴らしいと思います。地域の方も苦情を言う対象が学校であれば、それはお互いにとって悲しいと思います。地域のお子さんが通う学校、そしてその地域の将来を担っていく人材は、その児童であり生徒ということですので、是非この長南小学校をはじめとして、人材確保の手法がどういうところにあるのかを研究していただいた上で、これまた成田というのは市民同士の関わりが非常に強い、例えばお祭りですとか、色々なイベントを通して、その方法を参考にしながらより独自の町内会等の力をいただきながらというようにしていただければ、長南町以上に一致団結できるのではないかと思いますので、是非お調べいただければと思います。

大徳委員：先日、本城小学校で学校地域本部を今年度からスタートしようということで、小野寺青少年教育係長に説明に来ていただきました。その際、地域コーディネーターにこれからはという方に同席していただいたのですが、非常にコミュニティ・スクールに近いお話をいただきまして、学校の応援団ということで凄く良い活動だと、でも私はこういった活動を知らなかったとおっしゃっていました。何でもっと早くこういった活動があるということを知らせてくれなかったのかと、こういう活動があれば地域でも応援しやすいということをお話していました。この後、こういったコミュニティ・スクールとか学校支援地域本部も含めて学校の応援団となる活動を社会教育という視点で、今後地域の方へどのように説明していくのか、または説明する予定があるのか、そういうところをお話いただきたいと思っています。

事務局：学校運営協議会につきましては、地域と学校の理解が必要となりますので、まずは、学校に学校運営協議会制度のことを十分周知した上で、地域へ下ろしていくようにしていければと思います。ただ、その方法が必ずしも有効かどうかというところは、これから皆様から意見をいただきながら進めていきたいと思っています。

多田(初)委員：地域と学校が一体となって良い方向に進むのではないかとおられるのですが、私の住む地域の小学校を見てみると、児童数も少なく、人材がいないと思います。この仕組みは、小さな学校が何校か連携するのではなく、一校につき一つずつの設置になるのでしょうか。また、地域が人材を発掘するにあたり、人材が少ない場合は学区外の地域の方でも良いのかというところを教えてくださいたいと思います。

事務局：コミュニティ・スクールは、学校と地域が一体となるという考え方にありますので、一校ごとに設置していただきます。学校の規模が小さく人材が不

足している等の懸念事項があるかと思いますが、学校支援地域本部や学校評議員制度、PTA の経験者等に協力していただいているという状況がございますので、そういった方が対象になるかと考えております。

多田(美)委員：多田初委員の質問に関連しますが、新規の人材というのは、成田市若しくは、千葉県に限るのでしょうか。それとも、もっと広い範囲で公募等の募集を行うといった考えはあるのでしょうか。公募をかけた時に他の地域の方から、立候補があれば柔軟に対応しても良いのではないかと先ほどのお話を聞きながら考えていたのですが、いかがでしょうか。

事務局：まず、学校との連携・協働ということが挙げられますので、できれば地域を知っている方の方が好ましいと考えております。

日暮委員長：それぞれの小学校や中学校の中で、PTA や環境整備等で学校を応援しているという地区もあるかと思いますが、これをもう少し発展した形がコミュニティ・スクールになるかと思いますが。そのあたりのところで、現状こんな活動ができているという例があれば、教えていただきたいと思います。

湯浅委員：私の住む地域は八生小学校の近くにあり、主人が元教員で学校が近いのでお手伝いさせていただいております。それで、コーディネーターさん等のお声がけをさせていただくと、実際のところ不自然な話ですが、登録されている方はいらっしゃると思いますが、参加される方はそれほど多くないようです。やはり、積み重ねが大切なのかなと思います。声を掛ければ、地域の皆さんは、おらが小学校とっておりますので協力してくださるのではないかと思います。

また、近いところが一番だと思います。現在、市内で 15 校と聞きましたが、少しずつこういった活動を広げていけば、もっと根も広がるのではないかと思います。老人会の方がやる草取りの際には、主人は草刈りを持って行ったり、鎌しかできないよとおっしゃるおばあちゃんが出てきてくださったりして皆さんとやらせていただいております。

大徳委員：学校現場というところで、話させていただきます。本城小学校に着任してから学校が 2 カ月間休校ということがあったのですが、非常に地域の方の応援をいただいているなというのを感じます。昨年一年間の活動を見ても、昔遊びのことで申し上げますと敬老会等のお手伝い、社会福祉協議会の方からは車いす体験、交通安全指導で申し上げますと地域の方の見守り、PTA の方からは草取りのご協力をいただいております。先日、芝生の入れ替えの際には、おやじの会の皆さんがコロナ禍ではございましたが三密に気をつけながら作業をしていただきました。様々な場面で、学校は地域の方から応援をいただいております。ただ、それを統合するようなも

のがなかなか無いので、どうしても個々の団体にこちらからアプローチをさせていただく、あるいは個々の団体から学校に声を掛けていただいております。学校として年間を通して活動を行う中で、なかなか一つのまとまりとして、こういうところでご協力いただけるとありがたいですという説明の場面が無い、若しくは、地域の方から見て学校がどんな活動を求めているのか地域の方から学校に要望するような場面がなかなか無いというところで、このコミュニティ・スクールや学校支援地域本部の事業でまとまりを作っていただけるような機会があると、双方向の活動をお願いに支援しながら学校の応援団というところでより強固になっていくのではないかと感じます。

齊藤委員：私は、公津小学校でPTA会長を2年間務めさせていただき、西中学校でも副会長を務めさせていただきました。現在は、交通量が多い宗吾霊堂前の横断歩道で毎朝交通安全指導をしてから勤務しております。今年で8年目となりますが、やはり私も学校の応援団という気持ちでやらせていただいております。そういう活動があるということをもう少し、いろいろな方に広まれば、私自身もそうですが青少年相談員OBやPTAのOBの方々に協力していただけるのではないかと考えておりますので、どうやって呼び掛けていくかが今後の課題になるかと感じます。

日暮委員長：学校評議会制度（コミュニティ・スクール）ですが、学校の教育活動を共に地域と学校が作り上げていく中で、学校教育活動の学習面以外のところでも文化活動や地域の活動、環境整備等で、学校と個々の団体の交渉ではなく組織的に運営していくという捉え方でよろしいでしょうか。

事務局：考え方ということになるかと思いますが、私どもといたしましては、地域の子供達のために何ができるのか、そして地域と共に学校づくりをしていくということがございます。それぞれの学校、地域の特性を生かした地域と共に歩む学校づくりを掲げておりますので、地域の方や社会教育団体関係者等のご協力を得て進めることができると考えております。

日暮委員長：次に移りまして、これを運営していく地域人材を発掘という課題に対して、ご意見やアイデアがございましたら、お願いいたします。

多田(初)委員：実際に活動してくださる方の発掘は、人材バンクやまなび&ボランティアサイト等を活用するなど、学校で閲覧できるようなシステムを開発して、広く周知させていけば良いのではないかと思います。また、コーディネーターについては、自治会長やPTA役員の方々に声を掛けていただいて、地域の文化を残して次の世代に存続していけたらと思います。やはり、地域の実情をご存じの方々に声を掛けていくしかないかと思います。

日暮委員長：ありがとうございました。事務局の皆様には、事業計画立案にあたっては委員の方々から出されたご意見を参考にさせていただきたいと思います。

(3) その他

《発言要旨》

印旛郡市社会教育振興大会及び令和2年度の社会教育団体等に対する補助金予算について事務局より説明を行った。

6 傍聴

1名